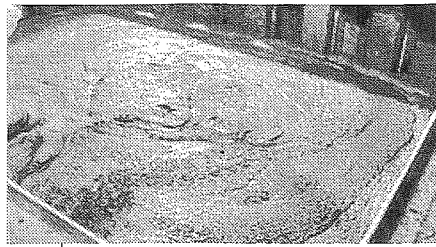


テクニカ合同

# 高含水泥土を即時改質

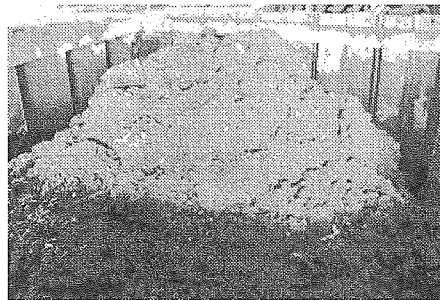
## 少量添加で作業性向上



改質前の高含水泥土

「土」に特化する化学薬品メーカーのテクニカ合同(神戸市、寺尾好太社長、☎078・436・0280)は、シールド工事や浚渫工事などで発生する流動性の高い泥土を即時改質する性能補助薬剤「ハ

イブリッドポリマー(助剤)」を開発し、昨年末から本格的に販売を開始した。同社が5年ほど前から販売しているアクリル系水溶性ポリマー「ハイブリッドポリマーα」の性能補助薬剤で、掘削土の付着性・粘着性をなくし、より改質効果を高め、



改質後のようす

高速施工も可能とする。「ハイブリッドポリマーα」(以下、α)は、流動性の高い高含水泥土に添加し、混合・攪

拌することで、対象物の流動性をなくし、自立性をもたせる液体型の固化剤。外観は淡黄色液体となっており、pHは中性のため環境影響を与えない。使用量は1立方メートル当たり約1キログラム(平均値)と、既存の無機系固化材と比べ少量で効果を発揮する。高含水圧区間での掘削時には、噴発防止にも併用することで、改質

役立ち、さまざまな土木工事に対応する汎用性をもつ。工事現場で発生した建設発生土の運搬効率を飛躍的に高める製品として、ゼネコン等の排出事業者から引き合いの多い製品となっている。

新たに開発した助剤は、アルミニウムなどを原料とした無機系薬剤で、αと同じく液体品となっている。荷姿は20キログラム箱や1立方メートルコンテナで販売。αと併用することで、改質

をより一層、短時間で行うことができ、従来以上の高含水掘削土に対応可能となった。助剤の添加量は、αの等量以下で効果を発揮し、製品単価も安価のため、併用すれば施工コストを下げられる。同社担当者は、「今

回、新開発した助剤によって、ハイブリッドポリマーαの適用可能な現場が大きく広がった。今後、リニア工事や東京五輪に関する大型工事が続く。そうした難易度の高い現場にも当社製品を積極的に提案していきたい」と話した。